



元気な子ども・若者の地域活動情報誌

# 子ども会

第57号

発行日 令和6年(2024年)3月1日  
 企画・発行 神奈川県立青少年センター  
 〒220-0044  
 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-1  
 TEL 045-263-4466  
 編集 神奈川県子ども会連絡協議会  
 〒241-0815  
 横浜市旭区中尾 2-1-14  
 TEL 045-365-4546

## Topics

- ◆ (1~3面) **特集** 語れ、情熱！わたしと、子ども会
- ◆ (4~5面) ありがとう、学びの3日間 関ブロ JL 研修会新潟大会参加報告  
/ 県立青少年センター子どもフェスティバル&神奈川県子ども会大会
- ◆ (6面) 令和5年度表彰、令和6年度事業計画



### 特集

語れ、情熱！

# わたしと、子ども会

取材協力：  
 綾瀬市子ども会育成連絡協議会  
 左から岡本さん、林さん、  
 橋川さん、植野さん

コロナ禍を経て、子ども会活動の縮小傾向が課題となっています。こんなときだからこそ、話題の「こどもまんなか社会」を地域で実現してきた子ども会のみなさんに、活動に対する思い、関わったきっかけ、現在の活動などをユース・リーダーがインタビューしました。

—みなさんの、子ども会に関わったきっかけや経緯についてお聞かせください。

(植) 子どもの入学で当たり前のように入会しました。役員になったのは、子どもがジュニア・リーダーになったのがきっかけです。

(橘) 私は自治会から勧められました。

(林) なんというか、いつの間にか(笑)ミニあやせ(注 綾瀬市主催のこどものまち)もやっていたので。

(岡) 活動に関わる中で、役員もやってみたい気持ちが芽生えました。

—これまでの活動で特に印象に残っていることはどんなことでしょうか。

(植) 学年関係なく、子どもの成長を見られるのが嬉しいですね。

(林) 綾瀬市ならではのようですが、厚木基地の子ども達と日本の子どもたちの交流事業で国際交流ができたことは素晴らしいかったですね。感激しました。

(岡) 子どもが子どもの面倒を見ている姿がいいですね。

—活動で心掛けていること、今後の活動についてはいかがですか。

(橘) 日々、安全に行事を運営する難しさを痛感しつつ、がんばっています。けがをさせることはできないですから。

(植) 今後は時代とともに変化しつつ、楽しめるようにしていきたいです。

(林) 単位子ども会がないのでつくりたいのですが、なくても市域の事業に参加できるというなあと思っています。

(岡) 大人は子どもと同様に、自分も楽しむことが一番だと思います。子どもたちには子ども会を通して学年が違う人と接してほしいですね。育つ、成長する機会がたくさんありますから。

—いろいろな思いを持ちながら支えていただいていたんですね。今日はありがとうございました！



取材者

星 陽向  
 神奈川県立青少年センター  
 ユース・リーダーズクラブ

「JLC of あやせ」  
 出身、地元への愛  
 にあふれた大学  
 1年生！



## 取材を終えて

今回綾瀬市子ども会連絡協議会の役員の方々に取材をさせていただいて感じたことは、市子連の役員を引き受ける経緯についてという質問でほとんどの方が頼まれて役員を引き受けたと回答されていたのですが、皆さんの活動から想像のできなかった結果で、驚きました。



今後の活動に関しては皆さんが同じ「子どものため」という想いを語って下さいました。そんな中で『地域に子ども会がなく子ども達を市子連開催のイベントに参加させてあげられないのが残念だが、年齢的に責任者として立ち上げられず、保護者の方々の協力を得られるかも定かではないため悩んでいる』といったお話がとても印象的でした。市子連開催のイベントには子ども会単位でのものも多く、無所属の子どもたちの参加が難しくなっている現状を初めて知り、ジュニア・リーダーとしても何かできることはないかと考える良いきっかけになりました。

私自身、小学3年生から弟たちと子ども会に所属し、参加者として、中学生からはジュニア・リーダーとして市子連の方々と数えきれないほどのイベントと一緒に活動させていただいてきました。今回の取材は、改めて市子連役員の方々の子ども達に対する素敵な想いを知る、とてもいい機会になりました。今回お話しいただいたことや、この取材の経験を、今後の活動に活かしていきたいと思います。

私は、子どもたちと自分自身の両者とも、経験し、成長してイベントを終了することを目標に日々ジュニア・リーダーの活動をしています。思えば今年は自分の成長がメインになっていたため、今後は以前と変わらず、自分も子どもも、両者の成長を目標に活動を続けていきたいと考えています。



磯子区 高2 高部 天明

- ① 子ども会に入った理由は周りの友達が入っていたからです。
- ② 卒業式あとに子ども会で開かれるイベントです。
- ③ やりがいは子どもに名前を覚えてもらえたり、いろいろな人と関わったりすることです。ぜひ入ってみてください。

## 現役に聞いてみた！

# 「子ども会」って、実際どう？

子ども会への気持ちを、横浜市子連の現役会員のみなさんにお答えいただきました！

### \* 質問項目

- ① 子ども会に入ったきっかけは？ ② 印象に残っていることは？
- ③ 活動のやりがい？ ④ 楽しかったことは？
- ⑤ 心がけていることは？ ⑥ 子ども会に入っていない人々へのメッセージ！

磯子区 高1 本多 小夏

磯子区 保護者 江口 敦子

- ① 他地域から引っ越したのを機に、子ども会に入会し役員になりました。子どもたち、保護者間の交流も深まり、子育てのことや地域の情報を得ることができました。
- ② ジュニア・リーダー主催の夏のキャンプの説明会やカレーパーティのレクリエーションでは、とても礼儀正しく、みんなを楽しませるための気配りに感心しました。本人の希望第一ですが、そういった社会性を身につけていけたら、と思い参加させました。

- ① もともと母が子ども会に入っていたので、そこでジュニア・リーダーの存在を知りました。
- ② 小学生のときにジュニアのお兄さん、お姉さんがクリスマス会で来てくれて、そのときのレクやゲームが楽しかったです。ジュニア・リーダーになってからは、派遣で屏風ヶ浦に行ったときに子どもたちと接している時間が楽しくて印象に残っています！
- ③ 朝登校をしているときに、今年のサマキャンに来てくれた子たちが「こなっちゃんだ！」といって手を振ってくれたことやサマキャン後の写真会で同じ班だった子がわたしのことを覚えてくれたことです！
- ④ ジュニア活動を通して、たくさんの方に会えて情報交換をして知識を得られること、サマキャン前の会議でみんなでサマキャンを作り上げていく瞬間がたのしかったです！
- ⑤ いつも笑顔で行動にメリハリをもち頭の中で次のことを考えることです。
- ⑥ 自分が知らないことを知れますし、たのしいことがたくさんあるのでぜひ子ども会に入ってください！

わたしと、子ども会

寄稿 川崎市子ども会連合会・区文化広報委員長

川崎市スポーツ推進委員 根本 一雄

# 地域をつなぐ、スポーツの力



川崎市は、サッカー、バスケットボール、バレーボール、アメリカンフットボールなど多くの強豪チームの本拠地で、プロ野球の練習拠点もあります。

そんな川崎は、子ども会もスポーツイベントが特に盛ん。子ども会＝少年野球チーム、という単会もあるそうです。

スポーツを愛する地域の子ども会の取り組みについて、寄稿をいただきました。

## 綱引き、みんなでにぎやかに

毎年、川崎区の綱引き大会は市民祭、区民祭の一環として開催されます。令和5年度は11月5日(日)、市体育館のカルッツかわさき1階大体育館で開催されました。

参加者は、子どもの部が川崎市子ども会連合会の単位子ども会、女子の部が川崎市町内会・団体、大人の部が川崎市町内会・企業・団体です。川崎市子ども会は子どものチーム参加者の募集の他、ジュニア、シニア・リーダーが場内アナウンスを担当し、協力しています。

## チームは幅広い年齢で

チーム編成は試合出場者12人。小学1～3年生の男女4人以上と、4～6年生の男女8人以上、合計20人以内のチームでエントリーします。小学校低学年が4名に満たない場合は失格となりますが、複数の子ども会等の連合チームも可としています。

本選はトーナメント方式で行い、3本引きとします。コンソレーションマッチ(親善試合)は1本引きです。子どもの部は外周 9.42m、マニラ麻で作成した少年用のロープ長さ30mのものを使用します。

前年の綱引き大会は、コロナ禍の余波が残っており、出場は9チームでした。今年は嬉しいことに、15チームに増加し優勝を争うことができました。

## ポイントは地域の連携プレー

設営、進行、審判の運営には、各町会から選ばれたスポーツ推進委員 30名が携わっています。スポーツ推進委員は、区市のスポーツ関係イベントにも積極的に協力している方々です。

綱引き大会のサポート以外に、ソフトボール大会、バレーボール大会などにも支援・サポートをいただき、子ども会の仲間として欠かせない存在になっています。



## ありがとう、学びの3日間

関ブロ JL 研修会新潟大会に参加しました！

関東甲信越静地区子ども会連絡協議会に加入している10県が県ごとに特色を生かしながら各県交代で行っているジュニア・リーダー(中高校生)たちのための研修会、関ブロ JL 研修会に参加してきました。

今年は県内各地から6名のJLと、引率としてYL3名、指導者1名、計10名での参加です。なお、令和6年度は長野県で、令和7年度は神奈川県で開催が予定されています。

※ JL…ジュニア・リーダー、YL…ユース・リーダー

※ JLC…ジュニア・リーダーズクラブ、YLC…ユース・リーダーズクラブ

### 船松 千夏 (県子連 YLC:かながわ戦隊県子レンジャー)

私は、関ブロに参加するのはJLの時から数えても神奈川大会ぶりだったので、楽しみであると同時に引率として参加させてもらう緊張や不安もありました。

そのような気持ちで関ブロ JL 研修会新潟大会に参加してみて、これまで県大会などで感じていた以上に地域差というものを感じました。レクゲームやキャンプファイヤーなどの一つのプログラムだけでなく、運営の仕方やJLと大人の方々の関わり方の違いなどについても引率という立場であったからこそ目を向けることができました。

また、客観的に見ることができたからこそ、あのようにやるとまくいくののだと思う部分や、神奈川でやるとしたらこうした方がよいかもしいかなと思う部分もありました。

神奈川での開催までにはまだ長野大会もありますが、私が引率で行けるかわからないので、今回の新潟大会で学んだことを今後神奈川大会や県大会の運営に活かしJLが楽しみながら学びのある研修ができるようにしたいと思っています。ありがとうございます。

### 岡田 小波実 (湯河原町 JLC)

県外のジュニア・リーダーと関わるのは初めてだったので、活動やレクなどどんなことをしているのか気になっていました。

初日のアイスブレイクでは、互いがどんなふう打ち解けていくのかを実感することができました。そして、キャンプファイヤーでは僕の知らないレクばかりやっていて新鮮な気持ちで楽しめました。特にファイヤー場から帰る時の参加者全員と握手する退場の仕方はとても参考になりました。

今回の3日間の活動での一番の成果は他県のジュニア・リーダー、ユース・リーダーに様々なレクを教わったことです。例えば知っているレクでも地域や県によってルールに違いがあり、それを教わることで自分の引き出しを増やすことができました。

地元のジュニアにも学んだことを共有して今後の活動を盛り上げていきたいと思います！

### 山口 結月 (厚木市 JLC)

私は関東ブロック大会に参加して、はじめにみんな元気で誰に対しても優しい方たちばかりだなと思いました。私は人見知りで人と打ち解けるのに時間がかかるのに、他の子たちはそんなのも関係なく私に話しかけてくれて本当にいい人ばかりだなと思いました。私も他の子たちみたいになれたらなと思いました。

これからは、自分が入っているジュニアだけではなく、他のジュニアともたくさん関わっていける活動をしたいです。ただ、あくまでこれはもっと先の夢なので、現実的には、今回関ブロに参加して知らないゲーム、知っているけどちょっと違うゲームをたくさん学べたので、それらを自分のジュニアでやりたいと思いました。そして後輩たちにも教えていきたいと思いました。

関ブロに参加して本当にいい思い出ができました。いろいろな思いがありながら行きましたが、みんなが優しく不安な思いがなくなりました。本当に楽しくて、たくさん学べて、最後のジュニアの活動としていい思い出ができました。楽しい思い出をありがとうございます。



▲ 笑顔でパシャリ！経験を神奈川に生かしていきます！

### 中谷 柚希 (平塚市 JLC)

私が関ブロ JL 研修会に参加して率直に感じたことは、男女関係なく、みんな楽しそうに過ごしていることがかっこいい、さすがJLだ、ということです。

私の中2という学年は、思春期真っただ中で、学校生活の中で男女が常に話し、過ごすことがなくなる、そんな年頃です。私も、実は男子と話すことが苦手になってきて、学校では女子と過ごす機会が増えてきてしまっていました。そんな中で、この研修会に参加し、自然と異性と話すことができるようになりました。私は、平塚に帰ってきて、他の異性と話してみたら、もっと学校生活が違う視点で見られるのではないかと思いました。夏休みが終わり、学校生活が始まり、今、私はだんだんと異性とも話せるようになっていきます。

これからこの経験を生かし、もっと視野が広がるよう、JLCでも学校でも自分から積極的にいろいろな人に話しかけ、仲良くなろうと思います。

## 秋山 陽遥 (厚木市 JLC)

私は今回の関ブロに参加して、多様性を学びました。ゲームの内容や、キャンプファイヤーの点火の仕方、野外炊事での薪の組み方、各地方でのジュニア・リーダーの活動体系の違いなど、関ブロに参加しなければ知り得ない情報や体験であふれていて、楽しかったのと同時にとても勉強になりました。

## 石井 優希 (厚木市 JLC)

私は関ブロに行って、他市他県のジュニア・リーダーのゲームや研修会の進め方、各地域のイベントを知ることができました。

特にキャンプファイヤーでは、ゲームの名前が同じでも内容が違うなど、地区ごとの工夫も見られ、楽しく充実した3日間を過ごすことができました。この関ブロで学んだことをこれからのジュニア・リーダーに生かしながら活動していきたいです！

## 清水 瑛太 (平塚市 JLC)

僕は、この3日間はとても充実していました。なぜなら、いろいろなことを学んだからです。例えば、防災食づくりの火おこしや仲間づくりのお国自慢などです。火おこしでは、木の組み方を教わりました。木は空気の入りがやすいように組み、うちわを使うと火が消えるので、自然に燃えるのを待つことも知りました。

お国自慢は、関ブロ参加者の都県の自慢を聞いたり発表したりするプログラムです。一番印象に残った場所は千葉県で、映像を使ったいろいろな場所の自慢が聞いていて楽しかったです。いちおしは東京ディズニーランドでした。

今回、この関ブロに参加して教わったことを平塚 JLC でも生かしたいと思います。参加させていただきありがとうございました。

派遣されたみなさんお疲れさまでした！  
今後の活躍に乞うご期待！

## 笑顔、つながるときに

県立青少年センター子どもフェスティバル&子ども会大会に参加しました！

今回、1月28日に県立青少年センターで開催された子どもフェスティバルに参加させていただきました！私は初めての参加でしたが、県子連の皆さんや周りのJLは温かく受け入れてくれて、とても心地よい環境での準備作業ができ、無事当日を迎えることができました。

当日はJLの工作ブースやボーイスカウトのブース、外ではカレーや唐揚げなどの模擬店といったような、たくさんのお出展がありました。

私が担当させていただいたのは子ども会大会の司会。初参加で当日のイメージもあまりできておらず、準備の段階で経験者であるレンジャーの不在が多かったため、不安を残したまま準備は進んでいきました。しかし、当日は経験豊富なレンジャーが隣にいたこと、舞台袖には一緒に準備をしてきたみんながいたこともあってか、思いのほかリラックスした状態で本番に挑むことができました。全く噛むことなく、思った通りに進めることができた、なんてことはもちろんなく、反省はありましたが、後悔は残さずに終わることができました。

そんな本番の中で、とても印象的な場面がありました。それは子ども会大会の中の、活動発表の時のことです。一輪車の発表をした子ども達が舞台上から移動する際に、彼女たちに向けて、待機をしていたヒップホップダンスの子どもが声をかけていたのです。「一輪車すごかったね」、「キラキラしてたよ」、そう声をかけている子はとても嬉しそうに笑っていました。言われた子達も、ありがとう、と自然と笑顔になって言葉を返していました。

私はその時に、子どもフェスティバルというイベントのすばらしさを改めて実感しました。子ども達はこうやって自分たちで笑顔をつなげていくのだな、と感じたのです。会場では、私が司会をしているときも、ブースにいたときも、多くの笑顔が見られました。

それらは子ども達がつなげていった笑顔、イベントが成功するようにと願い準備してきた私達がさらにつなげることでできた笑顔なのだと思います。このような笑顔をつなげていけるイベントに参加できたことは、私にとってとても貴重な経験になりました。

県立青少年センターで開催された子どもフェスティバルと子ども会大会。今年度はコロナ禍の影響を払拭し、スタッフを含め1,654名という大盛況のうちに開催することができました。

今回得ることができた経験、仲間との関わりを生かして、よりたくさんの方の笑顔をつなげていけることができるように、JLとしてさらに成長していきたいです。

さて、私が今回参加させていただいた子どもフェスティバルは来年も開催する予定だそうなので、みなさんぜひ参加してくださいね！



▲ 子フェスを支えた JL・YL のメンバー。  
笑顔につながる大成功でした！



取材者  
長谷川 望乃  
川崎市中原区  
子ども会連合会 Kind's

ボランティアとして初参加。子ども会大会では司会を務めました！



▲ 今年度札幌市で行われた全子連中央会議。令和6年度は沖縄県が会場です！

Information

令和5年度 表彰者・団体 「おめでとうございます♪」



公益社団法人全国子ども会連合会表彰

- 個人 横浜市 松本 豊  
川崎市 藤原 忠興、藤原 真理子  
綾瀬市 早川 晴子



神奈川県子ども会連絡協議会永年功労表彰

- 個人 川崎市(多摩区)藤田 博史、  
(宮前区)安藤 寿昭、(中原区)武 祐子  
茅ヶ崎市 遠藤 浩太、清水 夕子  
大和市 根来 裕美子、坂崎 英子、  
藤村 智子、藤田 里江子  
厚木市 大館 昭一、相原 浩一、奥田 七代  
団体 川崎市 河原町13-14-15号棟子ども会(幸区)

令和6年度 主な予定

URL <https://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/>

二次元コード



事業計画(予定) *開催日は未定	
2024	5月 県子連総会、県子連YLC総会、全子連総会
	6月 関プロ総会(山梨県)
	8月 関プロJL大会(長野県) 政令指定都市JL大会(未定市)
	10月 関プロ育成研究協議会(山梨県) 第19回県子ども会JL大会
11月 政令都市地区育成研究協議会(横浜市) 全子連中央会議(沖縄県)	
2025	1月 県立青少年センター子どもフェスティバル・神奈川県子ども会大会

>> 神奈川県子ども会大会、各地区研修会などの日程や参加募集の詳細は神子連のウェブサイトでご確認ください。

>> 用語説明

- 全子連 公益財団法人 全国子ども会連合会
- 関プロ 関東甲信越静地区子ども会 育成連絡協議会
- 指定都市子連 指定都市子ども会連絡協議会
- 県子連 神奈川県子ども会連絡協議会
- YLC ユース・リーダーズクラブ
- JL ジュニア・リーダー
- 育成研 育成研究協議会

編集後記

やっとコロナ禍の長いトンネルから抜け出しました。今回の情報誌には、育成者のみなさんの声、会員のみなさんの声が数多く寄せられました。関プロに参加したジュニア・リーダーのみなさんからは、いろいろな県のみなさんとの関わりから、教えられることが多く大変有意義な充実した研修会だったという報告がありました。今後に活かしていくユース・リーダー、ジュニア・リーダーの活躍を期待しております。紙面のフォントが小さくなりましたが、1人でも多くの投稿者の原稿を掲載したくこのようになりました。広報誌の発刊に際しまして、原稿をお寄せいただきました関係者の皆様方、ご協力ありがとうございました。広報誌は、神奈川県立青少年センターのご協力により発刊いたしました。

広報誌担当委員長 片岡 喜久江